

2025年7月4日

株式会社三菱UFJ銀行

株式会社 SkyDrive への追加出資について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤 宏規、以下 MUFG）の連結子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一、以下 当行）は、空飛ぶクルマ^[1]の開発、製造から販売、運航まで一貫したサービスを提供する株式会社 SkyDrive（代表取締役 CEO 福澤 知浩、以下 SkyDrive）に対し、プレシリーズ D ラウンドにおいて出資（以下 本出資）を実施いたしました。本出資は、2022年のシリーズ C ラウンドに続き、2回目の出資となります。

なお、当行は本出資において、リード投資家の1社として出資者の取りまとめ役を担い、総額83億円の資金調達に貢献しております。

空飛ぶクルマの市場規模は、2050年にはグローバルで180兆円を上回るものとされており^[2]、機体開発だけでなく、離発着場や電力供給に係る周辺インフラ等を踏まえると、他産業への経済波及効果が大きく、裾野の広い産業とされています。また、ユースケースとして導入初期は観光遊覧や救命救急としての利用が見込まれているものの、徐々に二次交通としての利用が広がり、将来的には自動操縦機能を施したエアタクシーとしての日常的な利用が想定されており、人々の移動手段に変革を引き起こすことが期待されています。

SkyDrive は2018年7月に設立されたモビリティ・スタートアップであり、「100年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションとして、日常の移動に空を活用する未来を実現するべく、主に空飛ぶクルマの開発を行っています。

足元においては、空飛ぶクルマの商用化に向けて飛行試験を重ね、2025年4月には大阪・関西万博会場内での公開デモフライトに成功。さらには、国土交通省航空局より型式証明の適用基準が発行され、証明計画策定へのフェーズへと開発を加速させています。

また、SkyDrive が国内外で獲得した機体のプレオーダーは7カ国380機超に達しており、事業のグローバル展開も加速しています。国内においては、複数の大手鉄道会社様が資本参画しており、空飛ぶクルマの社会実装に向けて既存の鉄道ネットワークと SkyDrive の次世代モビリティを融合させることで、陸空シームレスな移動価値を一層高めることを目指しています。

当行は、従前より次世代産業の一翼を担うスタートアップに対し、資金供給やビジネスマッチング等を通じて、積極的な支援を継続しています。

本出資を通じ、MUFG ネットワークを最大限活用しながら日本経済の競争力強化に繋がる次世代の産業育成に貢献すると共に、都市部において深刻化する交通渋滞や、道路や橋梁等の社会インフラにかかる修繕負担の軽減を含めた持続可能な交通手段の構築、並びに観光産業などの地域経済の活性化や災害救助などを通じた安心・安全な地域社会の構築に向けた取り組みを支援してまいります。

< SkyDrive の概要 >

名称	株式会社 SkyDrive (代表取締役 CEO 福澤 知浩)
設立	2018 年 7 月
URL	https://skydrive2020.com/
所在地	豊田本社：愛知県豊田市挙母町 2-1-1 豊田開発センター：愛知県豊田市西中山町山ノ田 20-2 豊田テストフィールド：愛知県豊田市足助地区 名古屋空港オフィス：愛知県西春日井郡豊山町大字豊場 県営名古屋空港 2F 東京オフィス：東京都千代田区平河町 1-3-13 平河町フロントビル 3F 大阪オフィス：大阪府大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第一ビル 8F
事業内容	1. 空飛ぶクルマ（電動垂直離着陸型無操縦者航空機（eVTOL））の開発・製造・販売・運航サービス 2. ドローン関連サービスの提供

[1] 空飛ぶクルマとは電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段です。諸外国では、Advanced Air Mobility（AAM）や Urban Air Mobility（UAM）と呼ばれています。

引用元：国土交通省（令和 6 年 4 月付） <https://www.mlit.go.jp/koku/content/001739488.pdf>

[2] 出所：株式会社矢野経済研究所「空飛ぶクルマ世界市場に関する調査（2023 年）」（2023 年 5 月 15 日発表）

以 上